

想田 ● 映画界に対する彼の作品の功績は大きいですが、自分のスタンスとは逆です。彼の作品は先に結論があります。自分としては、決めておくのではなく、価値判断も横に置いてフラットに世界を観察し、自分でも予想のつかない展開を撮りたいです。

小林 ● 観察映画の見解では、ないといふことですね。

足利市長の観察映画を撮る予定は？

想田 ● 興味あります。足利市政の観察映画を撮りたいですね。

足利市政は、足利で暮らす人にとって最も身近な民主主義の現場のはずです。でも、僕自身は足利出身なのに市議会を傍聴したこともない。どんなことがどのように話し合われ決定されているのか、とても興味があります。

小林 ● 市議の承諾を得て是非！



次は、小学校6年生の女の子からの質問です。映画に猫たちがたびたび登場していましたね。猫は好きですか？

想田 ● 大好きですが、数年前に猫アレルギーを発症し、さわれません。昔から実家には野良猫や野良犬が迷い込んできて、いつの間にか居ついてしまう。例えば、足高に通学して

いたところ、近所に「ポチ」という名の野良犬がいました。学校へ通う際、僕の自転車の後を追ってくるんですよ。広い道路にさしかかっても追ってくるので、引き返してよく遅刻していました。そのうちにポチはうちの犬になりました。

小林 ● グローバルな視点から、日本の政治がどのように見えますか？

想田 ● 政治に対する無関心と放任主義が蔓延していて、非常に危機的です。しかし、外国の民主国家でも似たようなことが起きています。民主主義とは、そもそも難しいものなんです。王政では王が何でも決めてたわけですが、民主主義ではそれを民衆が決める。国民それぞれに高度な思考力と判断力が不可欠です。

一人一人が、考え、調べる努力をし



小林 ● 民主主義が育つのは難しいといふことですか？

想田 ● はい。しかし、だから民主主義をやめましょうということではありません。王政に戻ったとして、たまたま優れた王様ならいいけど、ダメな王様だったら悲惨です。民主主義ではダメな指導者を降ろせるという利点があります。

小林 ● 民主主義が育つバックグラウンドが、ないのでは？

想田 ● 民主主義とは、一人一人が育てて創り上げていくもの。誰かに創ってもらうことができないのが、民主主義です。

小林 ● 足利の良さはどういふところでしょうか？

想田 ● 川、山、平野、水や空気が美味しい。美しく豊かな自然。これを

味い。

味い。

味い。

大事にしてほしいですね。ただ、最近ではシャッターの降りたお店が多く、街に人が歩いていないのが気がかりです。日本の地方都市はどこでもそうですが、車で人間が分断されています。映画館がないのも寂しいです。

小林 ● シャッターの降りた店がなくなるよう、足利市が元気になるといいですね。

フロアトーク終了後は、会場で想田監督のサイン会が行われ、サインを求める人の長蛇の列ができていました。(T・M)

*** 編集後記 ***

「ひとtoひとのフォーラム足利2013」盛況のうち幕を下ろしました。足利市出身の映画監督想田和弘さんの講演会を傍聴して、心に残った言葉がありました。「少数派の意見を守るのも民主主義」。難しく、時間も必要でしょうが、理解をすり合わせていけたら皆が幸せになれそうですね。地域、職場、学校、家庭などでも心がけられたらすばらしい。「よく観て、よく聴くこと」は、人権を尊重することに繋がることが分かりました。今後も想田監督のご活躍に期待してまいります。(T・M)